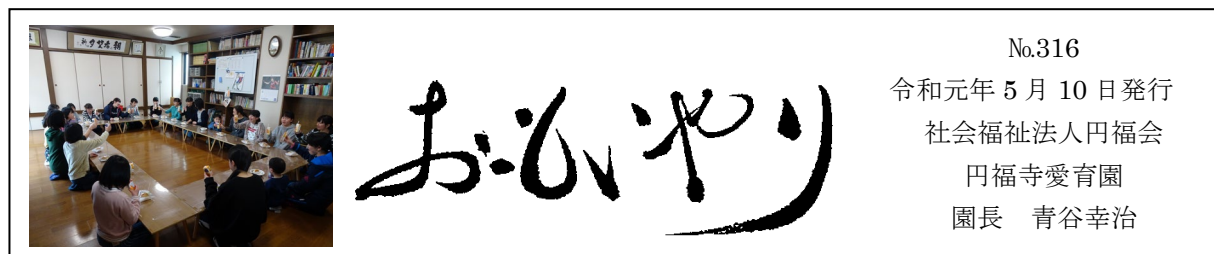


新年度が始まり、各ホームで顔合わせ会をしました。「今年度もよろしく！乾杯！」



心を開いて

理事長 藤本光世

新任職員を迎えて、新年度がスタートしました。

毎朝のおまいりで児童棟に入り、談話室に入ったとき、子どもたちがどうしているかなあと見ます。職員は子どもたちとどうかかわっているかなあとみます。子どもたちの表情やあいさつの様子を見ます。大勢の子どもたちが談話室にいて、職員と心で交流している姿を見ると嬉しく安心します。逆に、子どもたちの数がまばらで、それに対する職員の働きかけが見えないと不安になります。ホームの違いがみえます。

職員は、子どもたちが明るく心を開いて生活するように、何らかの働きかけをして欲しいと願っています。その願いをもって子どもと対応している姿を見たいですし、その姿を見ると嬉しくなります。昨日より今日、今日より明日、と子どもたちの表情が明るくなっていくのを見たいです。

職員それぞれは性格や、これまで生きてきた歴史をもって今がありますから、人それぞれです。上司や仲間の言葉を聞いて、それがどのようなことなのかを自分なりに理解して、判断して子どもに対応します。ここが難しい。言葉はもともと不完全ですから、話し手が言葉に込めた内容と、聞き手が理解した内容は違います。(昔、物理の授業の感想で「先生の言葉は宇宙人の言葉のようでした」と書かれたことがあります。一生懸命に話しても、伝わらないことはいくらでもあるのですね。)そして、理解してもできないことがあります。しかも、言葉の中に心がありますから、話し手の心と、聞き手の心の違いがそこに表れます。さらに、聞き手が心を閉ざして、話し手の言葉を自分の入れないようにするときもあります。心に殻を作るのです。それは自分を守るために、仕方がないことかもしれません。

だから、心を開くことは、開いてもらうことは、いや心を開き合える職場であることはとっても重要です。心を開くとは、心を開いても安心安全であることを、先ず職員が体感しなければならいでしょう。すると、子どもたちはそれに気付くでしょう。それは、愛育園全体が良い雰囲気になることにつながります。

連休の最終日は恒例の上山田温泉をスタートにした牛にひかれて善光寺参りがあります。約30キロの強歩です。千曲川の堤防上を歩きます。圓福寺の前も通ります。この日は、小学生が釈尊降誕

会(お花まつり)の花御堂づくりで参加できませんので、堤防上で応援します。篠ノ井橋のたもとが休憩所となっています。それを過ぎたところが応援の場所です。応援すると愛育園の子どもたちは先頭を切っています。参加者が子どもたちを見て喜んでくれます。子どもに「あいさつ運動」の緑の幟旗を持ってもらったことがありました。重かったでしょうね。今年はタスキをかけてもらおうかなあ。

新任職員は勿論、職員は歩きながら、子どもとたくさん話して欲しいと思います。子どもとの人間関係づくりこそ、子育ての基礎となります。人間関係ができなければ、子どもはその人に安心して心を開きません。ここに、この仕事が時間がかかる理由があります。

人は心を開いてこそ、そして安心と信頼のもとで、自分から成長しようとする力が湧き出ると思っています。「〇〇してはいけない」「〇〇しなさい」から、子どもたちが自主的に「〇〇してはいけない」ことを理解し「〇〇すること」に取り組むように成長することを願っています。

アフターケアの実践

園長 青谷幸治

当園では、昨年度よりアフターケアに力を入れて取り組んでいます。卒園生が施設を卒園し自立後を支援していくことは重要であり生活や仕事を定着させていくことは難しいことですが大事な業務だと思います。しかし当園では、これまであまり手を入れることができていなかったように思います。①愛育園に対して愛着を持たず、また将来のことを考えられず高校中退など途中で園を去った児童が多かった。また園を卒園することができても在園生との関係で影響が悪かった(力のピラミッド:卒園しても在園生を動かしていた)。②園内の児童の養育に力を入れて取り組むことが急務であったこと。この2点がアフターケアに取り組むことができない理由でした。

ここ数年、園内も落ち着き愛着を持って生活し、また夢をもって取り組む子が増えました。その甲斐もあり、園を卒園し自立して生活できる卒園生が増えています。少しずつではありますが主任を中心に忙しい中時間を作り、卒園生と会い近況を聞きながら様子を把握していきました。昨年は、アフターケアに取り組む中で愛育園の行事に参加してくれる卒園生も増えました。創立70周年記念式典、愛育園祭、東京ディズニーランド旅行、卒園式などわざわざ休みを取って行事に参加し皆勤した卒園生もいました。

卒園生を見て気づいたことは、卒園生も園を懐かしく思い、また行事もお客さんではなく自分たちもやってきたように一緒に準備から片付けまで手伝ってくれることで満足している。また在園生からは、園を卒園するとこんなに立派になって頑張っている良いイメージができ憧れになります。そして一番は、在園生自身が「卒園し一生懸命に頑張っていれば、いつでも園に顔を出せる、困ったときに相談ができる」だから自分のために努力しようと思える環境になりつつあるのかなと思います。

<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

先日、この3月に卒園し洋菓子屋で勤務しているSさんと昼食を共にしました。1か月も経っていませんが、働くことに音を上げているかと心配しました。しかし予想に反して元気で「仕事楽しいよ」と言ってくれました。何だか安心しました。洋菓子屋さんですから、幾分ぼっちゃりしたような気がしました。高校時代、登校できるかどうかの瀬戸際までいった子ではありますが、今は会社の一員としてしっかりと仕事を学んでいることに嬉しく思います。そして何かあっても相談できるそんな間柄になれると思いました。

愛育園のアフターケアを通して、卒園生の自立を定着させまた在園生の将来のイメージできる存在になっていけるようお手伝いしていきたいと思っています。そして、将来卒園生が何だかの形で愛育園を支援してくれる日を期待しています。

『高校に入学して』



を作っていけたらと思います。高校の入学式では初めての制服のネクタイを結ぶことに慣れず、職員に手伝ってもらっていた姿から、3週間が経ち、今では手慣れた様子で身支度しています。授業も本格的に始まり、中学とは違う専門的な授業が増え、一生懸命取り組んでいます。Aさんとは課題や提出物を100%出すことを目標に掲げています。将来的に専門学校など進学希望であるので、1年生の段階で成績を上位に維持していきたいと思っています。そのためにやる気に繋がるような言葉かけをしていきたいと思っています。また、中学から続けていた吹奏楽部を高校でも継続したいとのことで、部活をどう頑張っていくのか話し合っています。これから先の高校生活が充実したもの

まごころ保育士 竹内早季

今年度から高校入学するAさんの担当になりました。昨年度、受験勉強に励んでおり、塾に通い、大変な思いをしながらも頑張っていたAさんが合格発表の際に「受かったよ」と笑顔で話していたのが印象的でした。互いにまさか担当になるとは思っていなかったもので、発表の時は驚きました。これからたくさん話をして、Aさんとの関係

(令和元年5月10日発行 月刊「円福」464号付録 昭和52年5月25日第三種郵便物認可)

になるよう、一緒に頑張っていけたらと思います。

中学に入学して

まごころホーム保育士 有賀 真知

今年度担当させて頂くことになったSさんは、この春晴れて中学生になりました。入学してから早1ヶ月が経とうとしていますが、Sさんは毎日元気に登校しています。Sさんは入学当初、クラスに違う小学校だった生徒が多くいたり、仲の良かった友人と別々のクラスになってしまったりと、中学校生活に少々不安を抱えていました。しかし、入学して約1ヶ月が経った4月末の授業参観日では、たくさんの新しい友人の輪の中で楽しそうに笑っているSさんの姿がありました。その姿に私自身も安心しました。

Sさんは中学で学習を頑張り、テストでは高得点を取ることを目標にしています。学習面も生活面も充実した3年間にしてほしいです。

『中学に入学して』

小学校4年生の秋に入所してから担当をもち続けていたMさんがいよいよ中学入学となりました。入所当時小柄だったMさんは、身長もかなり伸びて、中学の制服もとても似合っていました。身長だけではなく、勉強も最後まで取り組む姿勢や少年野球で一生懸命練習に取り組む姿勢など内面もとても成長しています。Mさんは人と仲良くなりたい気持ちからつい相手をかまい過ぎてしまったり、ふざけてしまったりして時には友人とすれ違ってしまう事もありましたが、その都度どうしたらよかったか、どうしたら友人と仲良くできるのかを話し合ってきました。私がMさんに中学校で1番頑張してほしいのは勉強よりも人間関係を築くことです。確かに勉強も大切ですが、中学になり人間関係も複雑になってくるので、今まで以上に人への思いやりや自制心が大切になってくると思います。新しい環境に始めは緊張すると思いますが、園でもよく話を聞きながらサポートしていきたいと思っています。また、部活も

まごころ保育士 竹内早季



ソフトボール部に入部したいと思っているようなので、まず落ち着いて学校生活を送り、3年間頑張るんだと言う気持ちを整えた上でやらせていきたいと思っています。大切な1年になると思うのでMさんと一緒に頑張っていきたいです。

中学生になって頑張りたいこと

(中1 S. Y)

私が中学生になって頑張りたいことは2つあります。

1つ目は、小学校3年生から習っているピアノです。3月に受けたグレードテストに合格することが出来たので、今年からはコンクールにも出場することが出来るようになりました。なので、普段からたくさんピアノの練習をしたいです。

2つ目は、1学期の中間テストと期末テストで、高い点数を取ることです。そのために、平日は2時間以上、休日は4時間以上勉強したいと思います。塾も続けているので、一生懸命学習に取り組みたいです。

中学生になって

まごころ M・M

私は今年の3月、小学校を卒業しました。卒業式の制服姿が頭に浮かんでドキドキしたことが今でも心に残っています。そこからあつという間に中学生になり、中学校でも分からないことだらけです。その中でも一番苦手なことが、「友達との関係」です。私は友達との関係で、小学校4年生の時に1番苦労した時期がありました。だからその友達関係に失敗しないように中学の入学前、先生と話をたくさんしました。でも、がんばる努力もせずに、友達関係も中学に入り、1からのスタートになってしまいました。そして先生とまた話をして自分の中で目標を思い出しました。「友達に優しくする」「人にいろいろよけいなことを言わない」などがありました。だから今も、昔も、私の目標は変わりません。私はそのことができるようになるまで努力する、それが私の目標です。

高校での目標

まごころ A・T

私が高校に進学してがんばりたいと思っていることは3つあります。1つ目は提出物をしっかり出すことです。しっかり提出物を出さないと進級できないとのことなので、忘れずに機嫌を守って出すことを心掛けていきたいです。2つ目は、自分の予定をしっかりと把握することです。高校では、中学校のようになんでも先生が言ってくれるわけではありません。なので自分の予定は自分で確認できるようにしたいです。3つ目は部活動です。高校では、中学校でやっていた吹奏楽部を続けたいと思っています。なので、がんばって練習していい演奏ができるようにしたいです。3つの目標をしっかりと達成することが出来るようにしたいです。

愛育園の職員になって

金井雄大

円福寺愛育園の職員になり、早くも一ヶ月が経とうとしています。この一ヶ月働かせていただき、一日の生活の流れや、子どもの名前を覚えることはだんだんと出来てきたと思います。しかし、仕事を行うにしても、職員の皆さんに指示を仰いでからしか、仕事が行うことができていません。指示を仰ぐ前にどうすれば良いのか、自身で考えてから職員に聞き、答え合わせをするように園の対応を覚えていきたいと思っています。

子どもとの関わりでは、まだ他の職員のように、子どもからこちらに関わってくるのが少ないです。ですので、受け身にならずこちらから子ども達に積極的に関わりを持ち、日頃の挨拶や会話で子どもと言葉を交わし、遊びや行事で子どもが楽しむことができるように思いっきり一緒になって遊び、それらを通して少しずつ子どもとの人間関係を作っていきたいと思っています。

社会人として未熟ですが、今自分にできることは何なのか考えながら仕事を行い、社会人としてのマナーを学び、少しずつできることを増やし、仕事を任されても大丈夫だと思われる職員になりたいと思っています。



愛育園の職員になって

まごころホーム 田中 沙季

今年度から愛育園の職員となりました田中と申します。昨年度の3月末の研修から勤務させていただき、あつという間に1ヶ月が経ちました。まだまだ日々の業務も分からないこともあり、業務を覚え、こなしていくことで必死ですが、少しずつ愛育園での生活に慣れてきつつあります。

この1ヶ月を振り返り、特に難しいと感じることとして、子どもたちを注意することの難しさを感じています。今年の3月まで学生であった私は、叱ることよりも叱られることの方が圧倒的に多く、誰かを叱ったり、注意したりするということをしたことがありませんでした。そのため、子ども同士でトラブルがあった時、子どもたちが危険な事をした時など、どうやって注意したらいいのか、全く分かりませんでした。ですが先輩方に指導していただく中で、なぜ注意をするのかすべて

<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

に理由があるのだということに気づきました。ただ悪いことだからと注意するのではなく、なぜそれが悪いことなのかを自分自身きちんと理解し、根拠を持って注意しなければいけないと感じました。私自身まだまだ未熟ではありますが、これまで学んできたこと、先輩方の指導を受けながら子どもたちとの関わりの中で研鑽を積み、子どもたちの自立に貢献できるよう頑張りたいと思います。よろしくをお願いします。

愛育園の職員になって

まごころホーム 宮澤 穂香

4月より愛育園の職員になりました、宮澤穂香と申します。まごころホームを担当し早1ヶ月が経ちました。園での生活や流れを把握し、仕事を覚えることに必死でした。また、私は社会人1年目ということもあり、右も左も分からない状態で正直不安な日々でもありました。ですが、先輩方に丁寧に教えてもらい、ようやく慣れてきました。

1ヶ月が過ぎ、私の今後の課題は、もっと子どもたちと会話をし、1人1人を理解することが必要だと思います。子どもたちの学校での様子、好きな遊びや夢中になれる事、また苦手な事もまだまだ分かりません。自分から積極的に話し掛け、寄り添い、良い関係を築いていきたいと思っています。

園の子どもたちは、みんな明るいので私のほうが元気をもらっています。みんなの元気の源は愛育園の美味しい食事だと思います。私も、朝いただくお味噌汁はとても美味しく、おなかに沁み渡り、1日頑張れそうな気持ちになります。元気な子どもたちに負けず、日々笑顔を決やさないようにしていきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひいたします。

くまごろう杯

あおぞら 倉島



新年度がスタートし、少年野球チームは総勢10名で日々、練習に励んでいます。

新チームになって初めての公式戦。

「くまごろう杯」が4月27日、中野市営球場で行われました。結果は敗戦。負けてしまいましたが、前年度に比べると個々のレベルは格段にアップしているのが分かりました。打席に立っても「怖い」と言って、一度もバットを振ることの無かった女の子が、勇

(令和元年5月10日発行 月刊「円福」464号付録 昭和52年5月25日第三種郵便物認可)

気を出してバットを振ることができました。何もしない三振とバットを振った三振では大きく意味が違うことに、気付けたようでした。また、ピッチャーのY君一人に頼っていた部分も、自分からピッチャーをやりたいという子が増え、この試合で初めて投げた子が二人もいました。ヒットが打てる子も段々増えてきており、今後に期待できる所がたくさんあって、次につながる試合になったかなと思います。まだまだ「バットを打席で振った」「ゴロを捕った」などで一喜一憂するチームではありますが、始まりはそれでいいと思っています。何かきっかけがあって、1人でも多く上手になりたいんだという気持ちを持つといいなと思います。

私自身、今年から、監督としてチームを見ることになりました。今までコーチとして指導してきた分、監督となると「勝たせてあげなくてはいけない」という責任があり、今回の大会も、とても緊張しました。野球というスポーツを通して、選手には色々なことを教えてあげられたらなと思います。今年一年もどうかよろしくお願ひいたします。

円福寺愛育園少年少女野球団発足式

まごころホーム 橋本 雅

4月20日に円福寺愛育園少年少女野球団の発足式が行われました。今年度、6年生3名・5年生2名・4年生3名・3年生2名の計10名でスタートしました。選手1人1人から今年度の目標とやりたいポジションを発表してもらいました。とても堂々と自信をもって発表してくれました。そんな選手の姿を見てもっと上手になってほしい、野球を好きになってほしいと思いました。まだまだのびしろのある子達ばかりです。その力をひきだしてあげられるように子ども達と一緒に練習に取り組んでいきたいと思っています。また、様々な大会にも出場し経験をつみ、勝てるチームを目指して日々の練習に励んでいきたいと思っています。そして、技術だけでなく気持ちの面や挨拶、マナー、道具の管理、ユニホームの着こなしなども負けないように日々取り組んでいきたいと思っています。

いつも指導していただいている日詰コーチをはじめ、保護者の皆様、今年度もよろしくお願ひいたします。

BBQ大会

あおぞらホーム 近藤誠志郎

4月14日(日)に愛育園の中庭で昼食会として、BBQをしました。昨年、段ボールを使った手作りのピザ窯でピザを焼いたのですが、それが好評で、今年もおおぞらホームでは同じようにピザ窯を作りました。ピザ窯は前日の13日に作りました。小学生のY君や、高校生のK君が一生懸命に手伝ってくれたおかげで立派なピザ窯を作ることができ、当日は天気も心配されましたが、すっかり晴れてくれ無事にBBQを開催することができました。当日は、午前中から準備をはじめ、小

<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

学生はピザのトッピング、中学生・高校生はBBQの火起こしをします。愛育園では、キャンプやこの日のようにBBQを一年に何度かするおかげで、子どもたちにとって火起こしをするのはお手の物になってきました。あっという間に日の準備が済み、後は食材を待つのみです。小学生がピザのトッピングを済ませ、お皿の準備をし、中学生・高校生は肉や野菜、そしてピザ窯を使ってピザを焼き始めます。連携もうまくとれているので、テーブルにはあっという間に調理された料理が並びます。「いただきます」をして小学生たちは食べ始めますが、中学生・高校生はまだ調理を続ける必要があります、食べながらも働いてくれます。中学生の子たちの中には「先生今は休んでいいよ、俺が焼いておくから」と気の利かせたことも言ってくれる子もいました。みんなたくさん食べて大満足のBBQとなったと思います。片付け作業もみんなが協力し合ってあっという間に終わり、良い昼食会となりました。



BBQ 行事



も美味しく、チーズが伸びて、みんな笑顔で食べていました。他にもあおぞらホームの子ども達や先生方が焼いてくれたお肉や野菜、ピザも美味しく、お腹いっぱい頂きました。

食べ終わった後の片付けも、高校生から率先してやってくれて、それが中学生、小学生にも伝染し、子ども達全員が片付けを始めました。みんなで片付けると本当に早く、あっという間に終わりました。ただ楽しむだけではなく、後片づけまでササッと出来てしまう子どもたちの姿に驚かされ

まごころホーム 加藤ゆかり

4月14日にBBQ行事を行いました。暖かい1日で、天候にも恵まれました。

BBQなので、お肉や野菜はもちろんのこと、他にもピザやチーズパンを作りました。私は、まごころホームの子ども達とチーズパンを作りました。生地をこねて、チーズに巻き付けて、という作業がとても楽しく、子ども達と一緒に一生懸命作りました。子ども達も久しぶりのBBQ行事で、食事作りからとても楽しんでやっていました。出来上がったチーズパンはとて

(令和元年5月10日発行 月刊「円福」464号付録 昭和52年5月25日第三種郵便物認可)

ました。

とても楽しいBBQ行事になりました。今年度も行事を通して、子ども達の良い姿をたくさん見つけていきたいです。

あおぞらホーム だより

あおぞらホーム 石龍

寒い冬も明け、新年度がスタートしました。あおぞらホームでは、2名が進学し、小中高共に最高学年になる者が、なんと7名となり、多くの者がそれぞれの学校で集大成を迎える年度となりました。それぞれ、失敗も乗り越え、やっとの想いで最高学年となっています。ぜひ、悔いを残すことをないように、しっかり課題と立ち向かい、それぞれの進路へと進んで行ってほしいと思います。

小学生ではA君とB君が小学6年生になりました。また、今まで続けてきた少年野球も最終章になります。去年の始まりから見ると、チームの力はとてもついてきており、連携もとてもよくなってきております。A君B君共に昨年に引き続きキャプテンと副キャプテンになります。1年間苦労もあったかと思いますが、5年生の中、一生懸命やって来た経験値を今年に生かしてもらい、飛躍してもらえればとなります。

中学生は修学旅行がありました。中3生は3名いますが、無事3名とも修学旅行に事故なく行って来ることができました。お土産もたくさん買って来てくれ、思い出話をたくさん聞かせてくれました。特にC君は友人と馴染めるかとても心配しての旅行でしたが、上手く話すことができ、とても楽しかったとの事です。これから受験生として忙しい日々が始まると思いますが、最後までしっかり頑張ってもらいたいと思います。

そして、高校生では2名が卒園を迎える年度となりました。共に3年生を迎える事は出来ましたが、まだまだ立ち向かわなければならない事が2人共あるように感じます。園で暮らせるのはもう1年もありませんが、1つ2つでも次に繋がる経験をして、悔いのならないような進路へと進んでもらいたいと願っています。また、最高の卒園式を迎えられるよう、しっかり最高学年として、愛育園を引っ張って行ってもらえればと思います。

すぐにGWとなりますが、4月のスタートダッシ



<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

ユをみんな上手く飾り、次へと繋がる5月になればと思います。

まごころホームだより

まごころホーム 糸賀かなえ

新年度が始まり、園の生活環境も学校の環境も変わり、どんな1年が始まるのかと子どもたちにとってそわそわする時期となりました。園内では、子どもたちが生活する部屋替えや新しい職員を迎えて、今年度の児童の担当職員の発表などがありました。学校では、新しく中学校や高校に入学する児童や学年が上がり、それぞれに新しい環境での生活が始まりました。入学式の日、新しい学校の制服を着て、不安と緊張、楽しい気持ちが入り交じりながら初めての登校となりました。入学して約1か月経つ今は、少しずつ新しい環境に慣れつつも、まだまだ新しい人間関係を作っていくには時間がかかり、勉強も難しくなっていくので、地に足をつけて、少しずつ頑張っていってほしいと思います。

小学校や中学校では授業参観があり、職員が見に行くと、子どもたちは誰が見に来ているのかと後

ろをチラチラ見て、少し照れくさそうに笑いながらも一生懸命、授業を受ける姿を見ることが出来ました。少し落ち着かない様子であったり、張り切って挙手をしていたり、黙々とノートを書いていたりと、それぞれでしたが、授業参観などの特別な日だけでなく、何もない日も勉強をはじめ今のクラスメイトや友人と過ごせる貴重な時間を、一日一日、大切に過ごしてってもらいたいと思います。



調理室だより

栄養士兼調理員 原 未華

厳しい寒さが終わり、ようやく暖かい春の季節がやってきました。春は過ごしやすく、桜が満開に咲き誇り、新年度を迎える季節です。

当園でも学年が上がった子、新中学生、高校生になった子がいます。特に新中学生、高校生は今までとは環境が変わり、慣れるまで大変なこともあるとは思いますが、新しい学校生活を楽しんでもらいたいです。

(令和元年5月10日発行 月刊「円福」464号付録 昭和52年5月25日第三種郵便物認可)

毎日、勉強、部活、アルバイトなど何事にも一生懸命です。朝早くから夜遅くまで頑張っている子供達の姿を見て、私達調理も食を通して支えになっていきたいと思います。ホームの先生方よりは出来ることは少ないかもしれませんが、子供達の背中をそっと押せるように陰ながら見守っていきたいです。

園行事やホーム食などを子供達に関わる機会を大切に調理の方でも協力させていただき楽しい時間を共有したいです。子供達の期待に応えられるような食事作り、また健康を一番に考え、お互いに助け合いながら、声をかけ合うことをより意識していきたいです。

まだ寒暖差もあり、疲れも出てきて体調を崩しやすいですが、子供達の体調管理はもちろんのこと私達調理も体調管理を万全にしていきたいです。

今年度もよろしくお願い致します。

